

バンコクの風

ลมจากกรุงเทพฯ

日本学術振興会バンコク研究連絡センター 活動報告(2012 年 10 月～12 月)



【新体制となったバンコク研究連絡センター】

新年のご挨拶

JSPS バンコク研究連絡センターの活動報告「バンコクの風」(2012 年 10-12 月分)の刊行にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。本年も引き続きよろしくお願い申し上げます。

今回の活動報告で特記したいことは、今まであまり力を入れてこなかった在タイ日本大使館などが主催し、日本学生支援機構(JASSO)をはじめ関係機関が参加してタイ各地の大学などで実施する「地方留学説明会(日本留学のガイダンス)」に JSPS も協働したことです。JSPS が加わることで、ガイダンスが重層的になり厚みがでたことは、ナレスワン大学での例が示しているとおります。今後とも続けていく所存です。

また「大学の世界展開力強化事業」(アセアン特化)の採択大学からの訪問が相次いだことも今回の報告期間の大きなできごとでした。JSPS バンコクオフィスの存在を知らなかった大学もあったりして、それを周知できたことは大学との連携を図る上で重要な一歩だったと思っています。

本年もよろしくご指導並びにご協力をお願い申し上げます。

2013 年 1 月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長 山下邦明

主な活動と目次

10 月

1 日	山田大輔新副センター長の着任	P. 3
5 日	平松幸三 JSPS ロンドンセンター長の来訪	P. 3
15 日	NRCT(タイ国学術会議)を表敬訪問	P. 4
16 日	京都大学エネルギー理工学研究所 大垣英明教授の来訪	P. 4
〃	ユネスコ・バンコク事務所を表敬訪問	P. 4
25 日	タイ国立科学博物館(NSM)を訪問	P. 5
30 日	分子科学研究所 櫻井英博准教授の来訪	P. 5
30 日	京都大学農学研究科 赤松美紀准教授の来訪	P. 5
31 日	東京農工大学の来訪	P. 6
31 日	明治大学国際連携機構の来訪	P. 6

11 月

1 日	大分大学医学部 内田智久助教来訪	P. 6
16 日	国連フォーラム主催カンボジア・スタディ・プログラム 2012 一団の来訪	P. 7
17 日	Dr. M. Tofazzal Islam バングラデシュ JSPS 同窓会事務局長の来訪	P. 7
26 日	関西大学 田村裕教授の来訪	P. 8
26 日	九州大学経済学研究院の来訪	P. 8

12 月

1 日	第 4 回バングラデシュ同窓会シンポジウムを開催	P. 9-10
7 日	大分大学藤岡副学長の来訪	P. 8
12 日	京都大学附属図書館の来訪	P. 10
13 日	九州大学大杉准教授の来訪	P. 10
14 日	タマサート大学ビジネススクールの Duangjai Lortanavanit 准教授の来訪	P. 11
19 日	ナレスワン大学表敬訪問及び JSPS 説明会の実施	P. 12
24 日	第 10 回 JSPS タイ同窓会理事会の開催	P. 11

コラム#1	ダイスケさんのダイ好きアジア	P. 13
コラム#2	カイさんのタイご案内	P. 14

■山田大輔新副センター長の着任

<http://jsps-th.org/?p=3293>



2012 年 10 月 1 日付け、JSPS バンコク研究連絡センター新副センター長として京都大学より山田大輔氏が着任しました。(勤務は 10 月 2 日より)。任期は 2 年の予定となります。

【左より山田副センター長、山下センター長、Aunchalee 現地職員】

以下、副センター長挨拶。

2012 年 10 月 1 日付けで京都大学より JSPS バンコク研究連絡センター着任いたしました山田大輔です。前職は、京都大学物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS) 国際・企画セクションに在籍し、セクションリーダーとして世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) の評価対応、シンポジウムの運営、国際連携等を担当していました。

副センター長の重責に身が引き締まる思いではありますが、今後センター長とともに JSPS の活動を推進するとともに、前任のセンター長と副センター長が拡大してきた活動を引き継いでいけるよう尽力したいと考えております。

センター長、副センター長と現地スタッフの三名という最小の構成ではありますが、東南アジア唯一のセンターとして、アジア随一の都会から他のセンターに負けないよう、発信していく所存です。今度ともよろしく願いたします。

■平松幸三 JSPS ロンドン研究連絡センター長の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3310>

ロンドン研究連絡センターでは、独自で企画するイベントして、日本から京都大学博物館の大野館長、東京大学総合研究博物館の西野館長を招へいし 2012 年 10 月 25 日に「Public Lecture on University Museums in Japan」を実施する予定とのことでした。ロンドン研究連絡センターは、次のテーマを、「異文化コミュニケーション」とし、今後も様々な企画を実施する予定とのことです。



■NRCT(タイ国学術会議)を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3335>



2012年10月15日(月)、当センターのメンバー全員でNRCTを訪問しました。

山下センター長による新副センター長の紹介の後、サミットタワー10階にある日本の機関が合同で実施する「世界遺産とツーリズム」のセミナーについて、NRCTとの正式な共催を依頼し、了承されました。

NRCTからは以下の5名が出席しました。

- ・Dr. Jintanapa Sobhon 社会科学研究顧問 (Senior Advisor on Social Sciences Research)
- ・Ms. Pimpun Pongpidjayamaad 国際部長 (Director, Office of International Affairs)
- ・Mr. Sawaeng Jongsutjarittam アジア・アフリカ担当課長 (Chief, Asia and Africa Section)
- ・Ms Yada Sommasat (Foreign Relations Officer)
- ・Ms Pawanee Chaleeratnakul (Policy and Planning Analyst)

■京都大学エネルギー理工学研究所 大垣英明教授の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3399>

京都大学は、「平成24年度大学の世界展開力強化事業－ASEAN諸国等との大学間交流形成支援－」に採択されました。「人間の安全保障」開発を目指した日・アセアン双方向人材育成プログラムの構築の下で、「人間の安全保障」向上につながる人材開発を目標として、「エネルギーと環境」、「食料と水資源」、「パブリックヘルス」という3専門領域の協同教育を実施する予定です。

今回の打ち合わせでは山本 JASSO タイ事務所長にも同席頂きました。



■ユネスコバンコク事務所を表敬訪問

<http://jsps-th.org/?p=3348>



10月より着任した山田副センター長の紹介と、2012年1月に開催予定の「世界遺産とツーリズム」のセミナーに関する打合せを実施しました。

元ユネスコ職員である山下センター長の下で、新たな試みとして当センターとユネスコとの連携を今後実施していくことになり、これから更に当センターの活動の幅が広がっていくことが期待されます。

【多忙な中で時間を割いていただいた Kim 所長】

■タイ国立科学博物館(NSM)を訪問

<http://jsps-th.org/?p=3408>



タイ国立科学博物館 (NSM: National Science Museum) を訪問し、NSM とフィンランド科学博物館 (Heureka) が合同で企画した展示 “Move and Play” の開会式に出席するとともに、NSM の館長、部長、国際関係担当者への挨拶を行いました。

NSM は、タイ科学技術省 (MOST) の管轄にあり、バンコク郊外の科学技術省の敷地内にあります。

当センターは、今年 8 月に MOST と NSM が主催した科学技術展 2012 にブースを出展しており、来年度も出展を予定しています。

【Sonchaeng 館長、Hathayatham 部長と】

■分子科学研究所 櫻井英博准教授の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3517>

分子科学研究所は、JSPS が実施した「若手研究者招聘事業-東アジア首脳海外参加国からの招聘-」に平成 20 年度から平成 23 年度まで採択され、合計 90 名程度の博士課程学生、若手研究者を受け入れてきました。

JENESYS プログラムは平成 23 年度を以て終了しましたが、独自事業である EXODASS プログラムを立ち上げ、外国人研究者の招聘事業を継続しています。



■京都大学農学研究科 赤松美紀准教授 の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3527>



赤松准教授は、農薬・医薬の構造活性相関、農薬と環境を専門とされており、今回はカセサート大学との共同研究でバンコクに滞在されています。土壌の残留農薬についてのサンプリングを週末に行い、一週間ほどかけて検査を行うとのことです。今回は京都大学大学院農学研究科修士課程の韓さんと一緒に来訪されました。

■東京農工大学一団の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3538>



東京農工大学は、2012 年 3 月から 9 月まで当センターに研修生（大槻職員）を派遣しており、今回の訪問では、研修にかかる報告及び、今後の連携について、JSPS 及び日本学生支援機構（JASSO）を交えて情報交換を行いました。また JASSO や大使館との連携、バンコクの科学技術状況について、意見を頂きました。

【左から JASSO 山本所長、農工大中條准教授、野間教授、疋田課長、金子教授、河井理事、センター長、副センター長】

■明治大学国際連携機構の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3548>

明治大学は、タイ・バンコクにサテライトキャンパスを設置し、「日本 ASEAN 実務型リーダーの育成」を目指して、ASEAN 各国の大学とコンソーシアムを組んで、5 年間で約 1000 人の交流を実施する予定です。本プログラムはまた、「JSPS 平成 24 年度大学の世界展開力強化事業」にも採択されています。

今回は、サテライトキャンパスの設置に関する意見交換として、国際交流基金（JF）の福田所長、日本学生支援機構（JASSO）の山本所長とともに、意見交換を行いました。



【左から山下センター長、福田所長、白石理事、関山准教授、石津氏、山本所長、山田副センター長】

■大分大学医学部 内田智久助教の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3564>



内田助教の所属する大分大学医学部のグループは、JSPS 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム、頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラムを実施しています。

内田助教は、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムを通じて、タイの他ミャンマーやブータンでの現地調査の実施、またタイの研究者との共著論文も提出済みとのことで、継続して良好な関係を築いているとのことです。

内田助教の来訪は、今年に入ってから 2 回目、これまで合計 5 回訪問いただき、JSPS のプログラムに対するご意見等頂いています。

■国連フォーラム主催カンボジア・スタディ・プログラム 2012 の一団の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3862>



田瀬和夫在パキスタン国連広報センター長を実行委員長とする国連フォーラム主催カンボジア・スタディ・プログラム 2012 の一団が当オフィスを訪問しました。

国連フォーラムではこの 9 月から 12 月にかけて、25 名程度の若手日本人の参加により、カンボジアを例として、紛争後の社会がどのように復興できるのか、そのなかで国際社会がどのような役割を果たせるのかを学ぶ「カンボジア・スタディ・プログラム」を実施しています。

今回は、現地でのプログラム実施前の企画として、バンコクにある国際機関や政府関係機関を訪問し、国際機関での活動経験が豊富な山下センター長を講演者とするセミナーを実施しました。大学時代から国際 NGO、UNESCO、また九州大学や JSPS での経験談、また現在の研究テーマについても、講演を行いました。

研究者だけでなく学生も多く参加した中で、センターの活動報告が報告されたことで、大変意義があるセミナーとなりました。



■Dr. M. Tofazzal Islam バングラデシュ JSPS 同窓会事務局長の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3880>



【左から Hornyak 教授、Islam 教授、山下センター長】

Islam 教授は JSPS バングラデシュ同窓会シンポジウムを担当しており、シンポジウムにかかる実質的な打ち合わせが行われ、実施に向けて大きく準備が進展しました。

また、AIT の Hornyak 教授は Islam 教授の次の訪問先と言うことで、今回同席されましたが、ムハマド・ユヌス博士の研究を実施しているとのことで、センター長の研究分野での関わりがあることが判明しました。山下センター長はその後 AIT ユヌス・センターを訪問し、意見交換を実施しました。

■関西大学田村裕教授の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3892>



関西大学国際部副部長、日本・EU 研究センター所長であり、化学生命工学部の田村裕教授、関西大学バンコクオフィスコーディネーターの Dr. Chutima Vanichvattanadecha が当センターを来訪されました。

関西大学は 2012 年 4 月に「関西大学留学生別科（日本語・日本文化教育プログラム進学コース）」を開設しました。日本国内の大学・大学院への進学を希望する外国人に対して、日本語、日本文化等を教授する原則として 1 年間の教育課程です。

【左から JASSO 山本所長、田村教授、Dr. Vanichvattanadecha、山下センター長、山田副センター長】

本訪問については、日本学生支援機構(JASSO)タイ事務所の山本所長にも同席していただき、合同での対応を行いました。大学側の訪問の趣旨は学術の連携だけでなく、留学生の獲得が大きなトピックとなっており、JSPS と JASSO の双方において意見交換を行うことは大きな意義があります。2012 年 3 月に事務所を統合して以来、着実に JASSO との協力体制の構築が進んでおり、今後も JASSO と共同で大学との連携を推進していく予定です。

■九州大学経済学研究院の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3903>

本訪問については、山下センター長が九州大学から就任したことで、センター長への表敬を兼ねての訪問となりました。短時間での来訪となりましたが、センターの紹介及び意見交換を実施しました。

今回は、アジアに進出している企業の調査の実施にかかる訪問であり、本事業は九州大学の 100 周年記念事業としての西日本銀行からの寄付金によるもので、東アジアの成長、またアジアとどう発展するかをキーワードに調査を行っているとのことでした。



【左から山下センター長、久野教授、川波教授、加河准教授、山田副センター長】

■大分大学 藤岡利生理事・副学長(医療・研究担当)の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3921>



大分大学は、現在大分県・宮崎県と企業等との連携で「東九州メディカルバレー構想」を推進しており、タイやベトナムなどを中心としてプロモーション活動を行っています。

大分大学からは、何度も当センターを訪問頂いています。また、今回も日本学生支援機構(JASSO)山本所長に同席いただき、留学生に関連する意見交換に参加頂きました。

【左から副センター長、藤岡副学長、山岡教授、内田助教、JASSO 山本所長】

■ Symposium Report

第4回 Bangladesh 同窓会シンポジウムを開催

<http://jsps-th.org/?p=3991>

2012年12月1日(土)、ダッカ市内 Agargaon 地区にある Bangladesh Atomic Energy Commission (BAEC)において“Global Climate change ? Impacts, Vulnerability and Adaptation”をテーマに JSPS Bangladesh 同窓会第4回シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは、日本－Bangladesh 国交樹立40周年を記念する行事の一環としても実施されています。



シンポジウムでは Bangladesh JSPS 同窓会の事務局長である Tofazzal Islam 教授、山下 JSPS バンコク研究連絡センター長が挨拶し、続いて来賓として出席された在 Bangladesh 日本国大使館の南博之公使ほか、今回の主賓となる Muhammad Abdur Razzaque 食料担当大臣が挨拶し、最

後に、JSPS Bangladesh 同窓会の会長である Naiyyum Choudhury 教授による祝辞がありました。



【越塩俊介鹿児島大学水産学部教授】

基調講演は、越塩俊介鹿児島大学水産学部教授により、「Trends of World Aquaculture and Aquafeed Development」を題目として行われました。また、Bangladesh 側は、JSPS Bangladesh 同窓会の会長である Naiyyum Choudhury 教授により実施されました。

引き続き、実施された Plenary Session では、竹村明洋琉球大学理学部教授及び大久保敬九州大学大学院農学研究院教授による講演の他、同窓会員を含む Bangladesh 側からも2本の講演及び、Technical Session にて6本のプレゼンテーションが行われました。



【竹村明洋琉球大学理学部教授】



【大久保敬九州大学大学院農学研究院教授】

シンポジウム終了後は、引き続き総会が行われ、会長による挨拶の後、会計責任者による会計報告及び事務局長による 1 年間の活動報告が行われました。また、理事会メンバーの任期が来年 3 月で満了となるため、次期理事会メンバーの選挙が行われ、会長には Prof. M. Afzal Hossain が、事務局長には Dr. Nur Ahamed Khondaker が選出されました。

今回のシンポジウムには同窓会員を中心に、教員、大学院生など約 150 名の参加がありました。また、日本・バングラデシュ国交樹立 40 周年事業の一環として行われ、食料担当大臣が祝辞を述べに参加したこともあり、報道関係者も多く来場し、インタビューも執り行われるなど、当地での関心の高さが窺われました。

■京都大学附属図書館の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3934>



【左から竹口さん、北條職員、赤澤掛長、山田副センター長】

京都大学附属図書館の赤澤久弥掛長、北條風行事務職員、また同行者として京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程学生で現在チュロンコン大学政治学部客員研究員でもある竹口美久さんが当センターを訪問されました。

今回の出張目的は、増加する留学生と、多様化する図書サービスに対応すべく、東南アジア圏の図書サービスのあり方の実施調査のためであり、調査結果を通じて、今後のサービスの改善を図っていくことです。

■九州大学日本エジプト科学技術連携センター 大杉卓三准教授の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3947>

大杉准教授の所属する九州大学日本エジプト科学技術連携センターは、日本・エジプト両国の国家的事業である「エジプト日本科学技術大学(E-JUST)」の推進を目的として設置されました。

現在は、九州大学と E-JUST の博士課程ダブルディグリー制度創設のための準備、国際産官学連携を推進するために JETRO との共同セミナーや勉強会の実施、エジプト人研究者や事務職員の知財研修を九州大学で実施する等、様々な事業を推進しています。



■タマサート大学ビジネススクールの Duangjai Lortanavanit 准教授の来訪

<http://jsps-th.org/?p=3903>



当初、JSPS 事業の説明を受けたいとのことで来訪され、事業説明を行いました。Lortanavanit 准教授の専門が観光ということで、来年 1 月に実施予定である JSPS-NRCT セミナー「世界遺産と観光」についての説明を行うとともに、大学におけるセミナーの広報も実施いただくこととなりました。

■第 10 回 JSPS タイ同窓会理事会の開催

<http://jsps-th.org/?p=4050>



タイ JSPS 同窓会 (JAAT: JSPS Alumni Association of Thailand) 第 10 回理事会は 7 名の理事がセンター長を交えて議論を行いました。

今回の理事会では、下記の議論が行われました。

9 月 20 日開催の第 9 回理事会の議事録について詳細な確認がありました。(これは同窓会の法人登録のために詳細な議事録作成が必要だったとのことです)。

山下センター長より 2013 年 2 月 8 日に実施する JAAT 総会及び 1 月 19 日実施の JSPS-NRCT セミナー「World Heritage & Tourism」の説明がありました。

JAAT 総会については、2013 年 2 月 8 日(金)に論博メダル授与式とともに実施し、中国同窓会会長を正式に招へいすることとなり、あわせて前日に同窓会主催の夕食会を実施することとなりました。

1 月 19 日実施の JSPS-NRCT セミナー「World Heritage & Tourism」については、バンコクセンターより同窓会理事にチラシを送付し、広報を依頼することとなりました。

最後に、山下センター長よりバングラデシュ同窓会シンポジウムについて報告があり、理事会メンバーからは報告書を送って欲しいとの要望がありました。

この日は、2013 年最後の理事会兼歓迎会ということで、昼食にご招待いただきました。

■ナレスワン大学表敬訪問及び JSPS 事業説明会の実施

<http://jsps-th.org/?p=4067>

2012 年 12 月 18 日(水)、在タイ日本大使館主催ナレスワン大学留学説明会に参加し、その一環として JSPS 事業説明会を実施しました。午前中は、齊藤貢在タイ日本大使館公使を代表とし、ナレスワン大学を表敬訪問し、Prof. Dr. Sujin Jinahyon 学長、Professor Krasae Chanawongse ナレスワン大学理事長との会談を実施しました。その後、医学研究科に移動し、Samur Thanoi 研究科長による医学研究科の紹介セミナーが行われました。医学研究科には 7 名の日本留学経験者がおり、その内の数名が、JSPS 事業を得て日本での研究活動実績がありました。

【山下センター長と Jinahyon 学長】



医学研究科の訪問の後、医学研究科の会議室を利用して JSPS の事業説明会を実施しました。会場は 30 名の研究者、大学院生が集まり、山下センター長が事業紹介のプレゼンテーションを行い、引き続き質疑応答を実施しました。時間終了まで熱心に質問が寄せられ、予定の時間をオーバーした後も、個別で質問が寄せられ、現地での関心の高さがうかがわれました。

今回、個別で寄せられた質問としては、下記のものがありました。

- ・各事業の締め切りについて
- ・短期間での日本訪問に関するグラントについて
- ・元留学生に対する特別なグラント
- ・学生に対するグラントの有無について

JSPS の事業ではカバーしていない、日本学生支援機構(JASSO)の事業に関する質問も多く寄せられ、JSPS と JASSO の今後の連携を推進し、学生関係と研究者関係の役割分担をする必要性が感じられました。

今回は、JSPS のほか、日本学生支援機構(JASSO)、大阪大学、東海大学とともに参加しました。在タイ日本大使館が主催する地方留学説明会に JSPS としては初めて公式に参加したものであり、オールジャパン体制として在タイ日本大使館だけでなく、JASSO や各大学との連携を推進していく上で、非常に意義がある結果となりました。



【説明会参加者の皆さんとの記念撮影】



ダイスケさんのダイ好きアジア



サワッディーカップ。

バンコクセンター新副センター長のヤマダダイスケです。

「バンコクの風」の新しいコラムとして、ちょっとディープなタイ(と東南アジアの国々)についてこれから紹介していきたいと思います。

記念すべき第一回として「SUZUKI カップ」です。

2012年12月、日本でTOYOTAカップ(世界クラブサッカー選手権)が盛大に行われている頃、此処バンコクでは、SUZUKI カップ(東南アジアサッカー選手権)決勝第二回戦・タイ対シンガポールがバンコクのスパチャサイ国立競技場で開催されました。(決勝戦ですが、ホーム&アウェーの対戦です)日本企業が冠名となった国際大会が開催されていることは、とてもうれしいものですね。

シンガポールのホームで行われた決勝一回戦は1-3でタイは破れており、優勝するには大差をつけて勝つしかありません。此処バンコクの地には、タイの応援をするために各地からサッカーファン(と各国のサッカー馬鹿蔵ども)が集結しました。当然、チケットは完売で、会場は超満員です。いつもなら日本になかなか勝てないタイやシンガポールが「決勝戦」を戦うということだけで胸が熱くなるというものです。



試合は、前半終了間際に僕らの陣取るゴール裏の目の前でヘディングシュートが決まり、タイが先制。このままもう一点決めて2-0で勝利すれば合計スコアで優勝できる所まで来ました。

上がる応援のボルテージ。応援に後押しされるかのようにシンガポール陣内を攻め立てるタイ。しかし最後の最後が決まらず、タイは1-0で勝利したものの、合計スコアでシンガポールに破れ、準優勝になりました。タイに住んでいる者としては、やっぱり優勝して欲しかった!

【ゴールが決まった直後の応援席】

しかし、やはりサッカーは、どこで見ても面白い! 国と国との威信をかけた戦いは、TOYOTAカップの行われている日本以上に盛り上がったのではないかと思います。

僕は各国でサッカーを観戦するときは、真っ先に応援を見ます。その国の特徴が現れているのが応援だからです。タイの応援は、日本と変わらないぐらい熱狂的で、選手を後押しし、スタジアムも盛り上がりを見せました。一方で、タイのサポーターに囲まれながらも特に危険を感じることなく、老若男女が試合を楽しんでいました。

また、この試合は、日本学生支援機構(JASSO)タイ事務所の山本所長と観戦させていただきました。この日は土曜日にも関わらず、近接するチュラロンコン大学での日本語教育講演を聴きに行った帰りとのことで、お忙しい中お付き合いいただき本当にありがとうございました。こんなところでも、JASSOとの連携が着実に進んでいます。

【JASSO 山本所長と】





カイさんのタイご案内



新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。

2013 年 1 月 5 日に友達とお寺に行き、バンサクンペン・バンサクンタイの儀式を行いました。この儀式の名前は死んで生まれ変わる日という意味です。まずは、白い布を頭からかぶせられ、4 人のお坊さんが 10 分ほどお経を読み上げます。これで一旦死んだことになるそうです。その後、短いお経が読まれ、最後に「おめでとうございます。あなたは生まれ変わりました」と言われました。バンサクンペン・バンサクンタイの儀式を終わって、生まれ変わったような気分になり、とても気持ちが良かったです。費用ですが、儀式代として請求される金額はありません。ただ、お坊さんの数だけお布施を差し上げます。今回は、お坊さん一人当たり 100 バーツ差し上げました。

それから、ソイワニット(Soi Wanit)という通りにある、サンペーン(Sampheng)市場に寄りました。この市場では、靴、アクセサリ、日用品、ファンシー小物、チープな雑貨、手芸資材、生地、パーティグッズまで大量に販売されています。幅 1.5m ほどの狭い通路は荷物を積んだバイクがすれ違うので気をつけなければなりません。平日でも大変な混み合いですが、週末は各国のバイヤーたちで特に賑わいます。所狭しと並ぶ商品を選別するには、多少の体力も必要かもしれません。1 個でも十分リーズナブルな価格ですが、3 個、6 個、10 個と何点かまとめ買いすると値引きになるところがほとんどです。中でもオススメはアクセサリで、日本で見かけようなかawaiiデザインのものもあります。先述のように道が狭いので、買い物に夢中になって事故や盗難にはあわないように気をつけて下さい。

＜サンペーン市場(Sampheng market)への行き方＞

MRT ファラムポン(Hua Lumphong)駅から流しのタクシーを捕まえて行くか(約 10 分)、ラーチャウォン(Ratchawong)船着場から徒歩で行きます。キレイな建物も無く、お手洗いに困るので、ここに着く前に済ませておいてください。



ファンシー小物店



ボタン屋

※カイさんのタイご案内は、バンコクセンター現地スタッフの Ms. Aunchalee Suksurangkakul (通称カイ) さんによるものです。

■キングモンクット工科大学トンブリ、Times 誌での世界大学ランキングで上位に

Times の 2012-2013 世界大学ランキングにおいて、キングモンクット工科大学トンブリ (KMUTT: King Mongkut's Technology Thonburi) が 351-400 位に位置づけられ、世界トップレベル 400 大学の一つとなった。

The Nation 紙による Times 編集者の File Path 氏へのインタビューによると、KMUTT が Times 誌の世界大学ランキング上位に順位づけられたのは初めてのこと。

Sakarindr Bhumiratana KMUTT 学長によると、KMUTT はタイ国内での一人当たりの論文発表数が最大で、2012 年も、高位にランクしている。

2012 年、KMUTT は、Quacquarelli Symonds Ltd. (以下、「QS 社」とする。) による QS 大学ランキングの工学及び IT 分野において、352 位、さらに QS アジア大学ランキングでは、161-170 位を獲得している。また、Scimago Institution ランキングでも 1293 位を獲得している。

2011 年、KMUTT はスペインの National Research Council (CSIC) の Cybermetrics Labo (CINDOC) が発表する Webometrics 世界大学ランキングでは世界 933 位、東南アジアで 18 位、タイ国内では 8 位のランキングを獲得している。Green University from UI (インドネシア大学による持続可能な取り組みに対するランキング) では、KMUTT は東南アジアでは 3 位、タイでは 1 位のランキングを獲得している。

(10 月 5 日 タイ教育省)

■幹細胞研究の成功の陰にタイの研究資金不足と国の方針の欠如

山中伸也教授と John Gurdon 教授が 2012 年 10 月 8 日にノーベル医学生理学賞を受賞し、タイ国内の研究者を含む幹細胞研究を使った再生医療研究を行っている研究者がこの受賞を祝っている。

しかし、タイ国内の情勢に目を向けると、研究者は嘆かざるをえない状況である。国内の幹細胞技術の開発は、方向を失っているばかりか、資金も不足している。

過去 10 年に渡って、タイ国内での幹細胞研究機関は急激に増加してきた。既に今年に入り、少なくとも 3 つの大学が幹細胞研究の成功事例を報告している。チュラロンコン大学は、今年の初め、タイ国内で

初めてヒト ES 細胞の作製をするとともに、幹細胞バンクを設立したと発表した。タイ警察病院では、関節炎の患者に対して幹細胞の開発を行ってきた。警察病院は、45 歳から 60 歳の患者に対して、臨床試験を行っている。また、マヒドル大学の研究チームは、人間の羊水から純粋な幹細胞を抽出することに成功し、この結果、重症の関節炎といった症状の治療に利用する可能性があるとのことである。

しかしながらこういった成功事例の裏で、これらの多くは独自の研究資金に頼らざるを得ず、政府からは僅かな研究資金しか得られていない。警察病院は、3-4 百万バーツを関節炎にかかる幹細胞研究に使用しており、他の幹細胞研究の実施も視野に入れているが、研究資金が不足している。

研究者は研究資金だけでなく、幹細胞研究と開発にかかるロードマップも必要としている。幹細胞研究がタイ国内において成長著しい状況にあるにも関わらず、組織的に研究資金を拠出し、幹細胞研究の方向性を定める機関が欠如している。

タイ政府は国内の研究を推進する機関として、National Research Council of Thailand (NRCT) を設置しているが、多くの予算はタイに置いて優先順位の高い農学の研究に充てられている。NRCT はタイ国内の研究を支援するために 10 億バーツの予算を得ているが、僅か 6 千万-1 億バーツのみが幹細胞研究に利用されている。

Dr. Soottiporn Chittmittrapap NRCT 事務局長は、タイ国内において、幹細胞研究からの利益を享受する人々は、それ以外の分野に比して少ない。それでもなお、国としてのロードマップを策定し、研究活動を継続するための明確な方向性を示すべきだと述べた。

警察病院の Dr. Chatree Duangnet 副病院長は、幹細胞研究のロードマップを作成するために、研究機関が主要な役割を果たし、各関係者との意見交換を行った上で、国として目指すべき目標、戦略、方向性や財政支援について策定することが必要であると述べた。

幹細胞研究は 10 年以内には治療と医薬のリスク判断の面で重要な役割を果たすこととなりうる、幹細胞研究のロードマップの策定は、我々が何を指すかの手助けになるだろう。と Chittmittrapap NRCT 事務局長は加えた。

(10 月 22 日 Nation 紙)

■カセサート大学、政府に研究資金の増額要求

Vudtechai Kapilakanchana カセサート大学学長は、タイ政府は 9 つの研究大学に研究経費を支援しているが、カセサート大学はその内の一つであるにも関わらず十分な研究資金が得られていないと述べた。

2013 年度、カセサート大学は 2 億バーツの予算を要求して、4 千万バーツのみ獲得している。

カセサート大学学長は、タイという国を一層発展させるために、より多くの予算配分が必要であると考えている。現在、カセサート大学は 60%を独自の予算で、40%を政府からの資金で運営している。しかしながら、タイ政府の政権交代がない限り、現状の政府の方針は続く予定である。

(10 月 25 日 タイ教育省)

■チュラロンコン大学、カセサート大学、タイ国立科学技術開発庁(NSTDA)による中核研究資金を獲得

タイ国立科学技術開発庁(NSTDA: National Science and Technology Development Agency)は、2 千万バーツの研究資金を、チュラロンコン大学とカセサート大学の主要な研究者に助成することになった。

チュラロンコン大学歯学部 Prasit Pawasan 教授は、幹細胞を利用した口蓋裂の治療にかかる研究で、またカセサート大学農学部 Apichart Wannawijit 准教授は米の品質向上のため遺伝子の研究について、継続的に実施するため、そして社会に貢献できる研究推進のために本研究資金を助成された。本研究は、国際学術誌に掲載され、商業利用に提供される予定である。

(11 月 16 日 タイ教育省)

■タイ教育省、タイの教育制度向上のために ASEAN 経済共同体(AEC)の延期に同意

ASEAN 加盟国は、第 21 回 ASEAN 首脳会議で ASEAN 共同体の設立を、2015 年 1 月 1 日から同年 12 月 31 日に延期させることに決定したばかりだが、この決定に対して、タイ教育省も同意している。

タイは ASEAN 経済共同体(AEC)への準備が他の ASEAN 諸国(シンガポール、マレーシア、ベトナム、ラオス)と比べて進んでいない状況である。これらの国は卒業後、就職する際の職業教育を重要視している一方、タイの学生は学位を取ることを重要視し

ているが、実際には教育の質は他国よりも劣っている部分がある。

チュラロンコン大学教育学部の Sompong Chitradap 准教授によれば、AEC について知識を得た上で、国としての教育制度の枠組みを決定して、推進するべきだと述べた。

(11 月 21 日 タイ教育省)

■タイ科学技術省(MOST)2014 年度の基本計画と戦略について

Woravat Auapinyakul タイ科学技術大臣は、2012 年 11 月 16-17 日にハイアットリージェンシーホテル Hua Hin で、2014 年度のタイ科学技術省(MOST)の基本計画及び計画策定会議を実施し、Weerapong pairsuwan 事務次官及び関係者が本会議に出席した。

会議の結果策定された基本戦略は下記のとおりである。

- ・仕事のための科学
- ・生産のための科学
- ・将来のための科学
- ・日常生活のための科学
- ・基本的知識のための科学

(11 月 16-17 日 タイ科学技術省)

■タイ教育省、私立大学に公立大学と同様の研究費の支援を模索

Pongthep Thepkanjana タイ教育大臣は、これまで予算を減らしていた初等中等教育における理数教育を向上させるために、科学分野に焦点をあて、私立大学への研究予算について調査をするとともに、私立大学への支援を行う方法を模索していると述べた。特に現在、理系の大学生が不足している状況であり、この研究予算については、社会に貢献するための研究に対して、助成を行うことを予定している。

(11 月 22 日 タイ教育省)

■タイ副総理による科学技術省に対する研究方針の提案

Surapong Tovichakchaikul 副総理はタイ科学技術省(MOST)に研究方針を提案した。特に、食品保存剤、食料の近代的な包装技術、海外の技術の導入といった、タイ国民にとって必要な科学技術の研究についてであり、これらの研究は食品の保存や、食品価値の向上といった日常生活に応用が可能である。副総理は、日本、韓国、中国、米国、ドイツ、英国、フランスといった海外からの研究者を招へいしてセミナーを開催し、意見交換の実施を計画している。

MOST は、MOST から奨学金を受給したタイ学生の支援、サイエンススクールの設立、科学博物館、移動科学展示、科学キャンプと言った活動を通じて科学技術の発展と人材育成のために主要な役割を果たしてきた。研究資金が不足しているため、副総理は研究資金の追加について見直しを図ることを決定した。

Weerapong Pairsuwan 科学技術省事務次官が報告しているとおり、MOST は科学技術とイノベーションを推進する主要機関であり、16 の部局と 6,089 名のスタッフを擁しており、うち 738 名が博士号、2,207 名が修士号、2,454 名が学士号を取得している。

副総理による至急の政策は下記の通りである。

- ・持続可能な水管理の開発
- ・近隣諸国との関係の推進及び開発
- ・地域の手工業の開発ー各地のコミュニティにおける独自の特産物の開発
- ・研究者、科学者、科学教員の育成推進
- ・産官連携の推進
- ・リモートセンシングと地理情報システムの推進

(12 月 3 日 タイ科学技術省)

■第 4 回タイ教育省会議の開催について

S Phongthep Thepkanjana タイ教育大臣及び Serm Sak Pongpanit タイ教育副大臣は 2012 年 12 月 3 日に開催された第 4 回タイ教育省会議について成果を報告した。会議の議題は下記の通りである。

1. タイ政府政策の主要実施機関について

タイ教育大臣は、タイ教育政策を実施する機関として、下記の機関を列挙した。

- ・タイ基礎教育委員会
(OBEC: Office of the Basic Education Commission)
- ・タイ教育省教育委員会
(OEC: Office of the Educational Council)
- ・タイ高等教育委員会

(OHEC: Office of the Higher Education Commission)
・ノンフォーマル教育及びインフォーマル教育局
(ONFE: Office of Non-Formal and Informal Education)

タイ南部 3 県の平和をもたらす等、他の教育問題については、タイ教育省事務次官室 (Office of the Permanent Secretary of Education) と他の関係機関が協力して対応することとなった。

2. 主な業績について

1) FY2013-2018 におけるタイ教育省戦略の実施案について

タイ教育省によって実施されている政策、特に教育省によって推進されている 21 のプログラム及び教育の質向上、新卒者への支援にかかる進捗状況について報告された。

2) 2015 年の ASEAN 経済共同体(AEC)開始に向けての教育に関する実施案

この実施案は、タイの大学及び学術機関において、英語の使用を向上させることで、ASEAN 諸国の学生を呼び込むことに着目しているものである。以下、10 の主要なプログラムがある。

- ・限定された英語及び他の外国語能力の問題解決
- ・「ASEANness」の創出
- ・ASEAN における識字問題の解決
- ・ASEAN 諸国の私立学校への投資の自由化
- ・単位互換
- ・ASEAN での学習機関の創設と推進
- ・ASEAN における個人教育の向上と、青少年活動の推進
- ・ASEAN の活動を推進するための教育の質の向上
- ・初等教育のための教育課程の編成
- ・労働市場に見合った人材育成

タイ高等教育委員会及びタイの大学は、タイを国際教育のハブとするために、戦略を策定することとなった。

3) FY2013-14 のタイ南部の教育を開発するための実施計画の策定

4) FY2014 にかかるタイ教育省からの予算計画をタイ財務局に提出。合計予算は 128,657 million バーツになる予定。

5) 2012-2016 年にかけて教育局の地方分権化

この計画は、各地の学校を独自の方策を実施させることが可能となる。しかし、地方分権の方法、個人の能力育成、各地のネットワークの協力体制の再構築等、議論すべき点が多くある。

6) 職業訓練校の設置

主要方針にあるとおり、職業訓練を受ける学生数の増加、質の向上させるため、職業訓練校が設置された後、学生はより高い学位を得ることも可能とする。FY2016 にて、普通科と職業科の学生の割合を 50:50 にすることを目指している。

(12 月 3 日 タイ教育省)

■追い詰められたアジア工科大学院(AIT)の解決策の模索

アジア工科大学院(AIT: The Asian Institute of Technology)は、現状の危機を打開するべく、会議を実施する。AIT の評議会メンバーである、高等教育委員会、タイ外務省が 10 月 30 日に実施される会議に参加する。

AIT は、数十年にわたって高い評価を得ていた。しかし、タイ国会が新しい AIT の憲章を承認しなかったことから、AIT の学位がタイの公職に就くために有効ではないこととなり、それに関する抗議行動が 10 月初旬に起きていた。

AIT 同窓会長の Chawalit Chantararat は、「AIT は承認が保留となっている新憲章の代わりに、旧憲章を使用すべきだ。そうすれば、新たな卒業生や在学学生は苦しまなくてすむ」と述べた。AIT の旧憲章は 1967 年に制定され、タイ国会に承認されている。

数名の AIT の講師は、Surapong Towichukchaikul タイ外務大臣に対して、タイ外務省より AIT 幹部に旧憲章を一旦復活させ、その後一ヶ月以内に新しい憲章を修正するように要請した。Chailert Limsomboon 国際機関局長も、この嘆願を受け入れ、AIT の問題解決に尽力することを約束した。

AIT の新しい憲章は、AITを新たな国際機関として再設立するために作られ、既に 10 の国々と国連女性機関によって承認されているが、タイと東ティモールだけがまだ承認していない。

タイ国会の承認を得ないまま AIT が新憲章を採択した場合、タイ政府は AIT への助成金を打ち切る予定である。タイ政府の補助金は、一年間で 4 千 6 百万バーツにも及ぶ

AIT の Nopadol 准教授によると、AIT の新憲章はタイから AIT の運営委員長 の座を奪うものであるにも関わらず、AIT 理事会はタイ政府に助成金を出すよう要求しているとのことである。

一方で、AIT は月々 5 千万バーツの支出があるが、12 月までの運営資金が 3 千 2 百万バーツしかないとのことである。

Damrong Krai-kruan タイ外務省報道官は、AIT の危機は法的手段によって解決されるだろうと、運営資金が主要な問題であることは否定した。

Chawalit 同窓会長は、AIT 幹部が新しい憲章を強く支持していることから、この危機が簡単に解決されることは無いだろうと考えている。また、AIT が学部教育を他の教育機関と競合して運営できるかについて疑問を持っており、「AIT が地元政府からの補助金や寄付をもらっている以上、このような形で立ち向かうべきではない」と述べた。

(10 月 23 日 The Nation紙)

■アジア工科大学院(AIT)旧理事会の復帰

アジア工科大学院(AIT: The Asian Institute of Technology (AIT)の監督者は、AIT の憲章にかかる危機を解決するために、旧理事会を復帰させることとした。

今回の危機は 2012 年当初にタイ国会の承認を得ないまま AIT がその新しい憲章を有効化したところから起因している。タイ政府が新しい憲章を承認しない場合は、新憲章の元で取得した AIT の学位と新しい理事会は有効でないままであった。ここ数ヶ月間、Said Irandoust AIT 学長は新しい憲章を撤回することを拒否しており、危機は一層深まっていた。

12 月 12 日に実施された会議で、Irandooust 学長はタイ政府に認可された旧理事会メンバーが復帰することに同意した。理事会は、卒業生に対して学位を授与し、これは新しい憲章以降に学位を取得した者も含まれる。また、Nopadol Gunavibool 副外務事務次官が理事会議長を務めることも決定した。

しかしながら、新しい憲章はまだタイ国会からは承認されておらず、AITの学位については未だに不確定である。

(12 月 13 日 The Nation 紙)

日本学術振興会バンコク研究連絡センターの位置



日本学術振興会バンコク研究連絡センター/JSPS Bangkok Office

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

tel +66-2-661-6533 fax +66-2-661-6535

Website: <http://jpsps-th.org> Email: jpspsbkk@jpsps-th.org